

中学生における血液型ステレオタイプの 文化的浸透について

抄 録

本研究では中学生88人に、血液型ステレオタイプに対する考えやその考えが文化的に浸透していった経緯についてのアンケート調査を行った。その結果、血液型ステレオタイプを肯定する考えを持つ人が合計で6割程度と比較的多い結果となった。また、小学校高学年のときに血液型と性格に関する話題を見聞きする人が多く、それらの話題は主にSNSや人の会話によって伝わっていた。本研究により、中学生の間では血液型と性格の話題は「身近な存在」になっており、文化的に広く浸透していると結論づけた。

キーワード：血液型ステレオタイプ、血液型性格診断、文化的浸透

1. はじめに

1.1 研究動機

血液型別性格診断が存在しているように、日本には血液型と性格を結びつける考え方がある。具体的にいえば、「A型の人は神経質だ」、「この人はミステリアスだからAB型だ」というような、血液型がその人の性格形成に大きな影響を与える、といったものだ。この研究では便宜上、吉田（2002）を参考にして、血液型と性格を関係づける思考のことを血液型ステレオタイプと呼ぶことにする。日本では「1970年代から2000年代初頭にかけて「血液型性格判断ブーム」と呼ばれるものが起こり、それ以来血液型性格診断は日本人にとって身近なものとなった。」（佐藤・渡邊、1992）とされている。私の周りでも未だに血液型別性格診断を娯楽とした書籍やネット診断、テレビ番組などがあり、血液型性格診断ブームの影響は多大なものであると予測している。しかし、日本において、現代の中学生と血液型ステレオタイプの思考には繋がりがあのだろうか。私は友人と話しているときに、血液型と性格を関係づけるような話題で盛り上がるが多かった。しかし、その「血液型と性格の関係性」についてはまだ明らかになっておらず、現在に至ってもなお肯定的意見と否定的意見が混在している状況である。私は、中学生ではなぜ血液型ステレオタイプの考え方が当たり前のように話題になっているのか疑問に思い、本研究を進めることにした。

1.2 研究目的

中学生における、血液型ステレオタイプの考え方に対する是非と、血液型ステレオタイプが文化的にどのような経緯でどのように浸透しているのか、という2つの課題について検討することで、血液型ステレオタイプの文化的浸透の現状及び浸透に影響する事柄を解明する。

2. 研究方法

2.1 調査対象者、調査期間

2022年7月から10月にかけて、大阪教育大学附属天王寺中学校の生徒を中心とした中学生88名（男性25名、女性57名、その他3名、無回答3名）に対し、GoogleFormsを使用してアンケート調査を行った。

2.2 調査・分析の方法

質問の内容を以下の4つのグループに分類し、それぞれについて分析した。

- ①血液型ステレオタイプは正しいと思うか。
- ② 1. 血液型と性格についての話題を見聞きしたことがあるか。
2. それはいつ頃か。 3. どの手段で最も頻繁に見聞きしたか。
- ③ 1. 血液型と性格を結びつけるような診断・ゲームを行ったことはあるか。
2. それを行った理由はなにか。
- ④周りの人から血液型ステレオタイプに基づいて何か言われた経験はあるか。

3. 結果

本調査では、血液型ステレオタイプを「特定の血液型と性格特性との結びつきに関する信念のこと」（佐久間勲、2002）と定義づけて質問をしている。

- ①血液型ステレオタイプは正しいと思いますか。

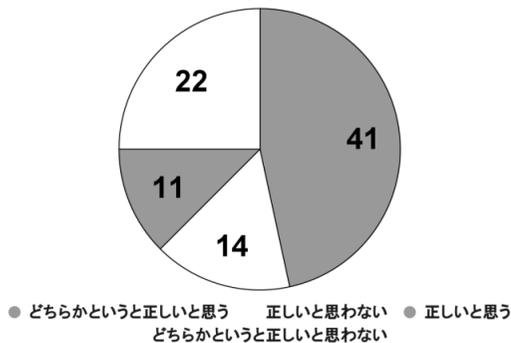


図1 血液型ステレオタイプに対する是非（人）

図1より、過半数の人は血液型ステレオタイプを肯定的（正しいと思う、どちらかというと思う）に受け止めている結果だった。しかし「どちらかという」とある2つの選択肢の一方を答えた人が合わせて7割以上いる。

- ② 1. あなたは、血液型と性格についての話題を見聞きしたり、話したりしたことはありますか。

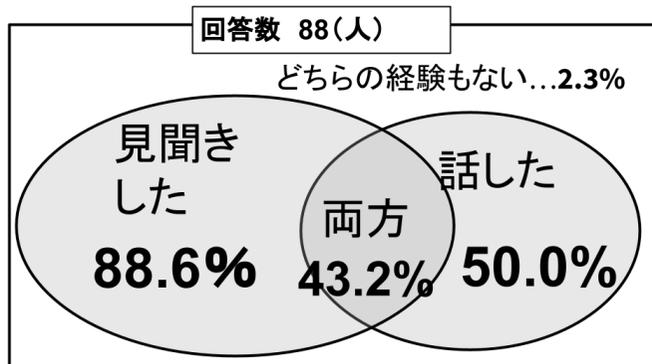


図2 見聞きした経験、話した経験の有無

図2より、血液型と性格についての話題について見聞きした、または話した経験はほとんどの人がしているとわかる。その中でも、見聞きした経験があると答えた人は9割近くいる一方で、話した経験があると答えた人は44人と、全体の回答数に対して半分の数になっている。

②2. ②1のそれぞれについて、その経験をした時期に相当する学年をすべて選択してください。

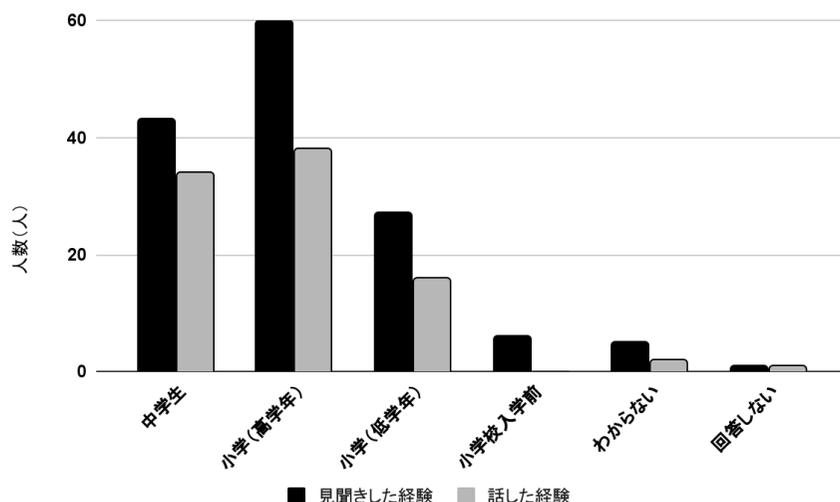


図3 それぞれの経験をした時期

図3より、それぞれの経験をした時期として見聞きした経験、話した経験共に小学校高学年が最多であり、次に中学生、小学校低学年と続いている。また、どの時期においても見聞きした経験が話した経験を上回っており、特に小学校高学年での差は大きい。

②.3 ②.1で「見聞きした」を選択した人のみ答えてください。最も頻繁に見聞きした、もしくは印象に残っている見聞きした手段を一つ選択してください。

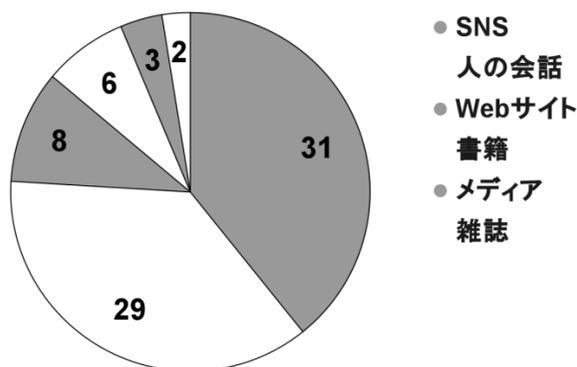


図4 最も頻繁に見聞きした、もしくは印象に残っているもの的手段(人)

図4では、「SNS」と「人の会話」が合わせて約75%を占めていた。しかし、その他の選択肢の回答数は少なく、その中での差も微々たるものだった。

③1. あなたは、血液型性格診断などの、血液型と性格を結びつけるような診断・ゲームをしたことがありますか。

ある：55人（62.5%）、ない：28人（31.8%）、わからない：5人（5%）

③2. ③1の「ある」を選択した人のみ、この質問に答えてください。それをを行った理由はなんですか。※複数回答可

この質問ではあらかじめ理由として考えられるものを選択肢として提示し、当てはまるものすべてを回答させる、といった方式である。

その中で最多だったのは「性格診断に興味があった」で32の回答、次に同率で「他人がやっているのを見聞きして、興味が出た」「血液型と性格を結びつけることや、結びつけた診断やゲームに興味があった」でそれぞれ20の回答、その次に「血液型または血液型に関する話題に興味があった」で16、「診断やゲームそのものに興味があった」で15、「他人に勧められた」が6であった。

③2では、「性格診断に興味があった」「血液型と性格を結びつける診断・ゲームに興味があった」のように、性格診断という括りのものに興味があって診断やゲームを行った人がいると読み取れる。しかし、「他人にすすめられた」以外の理由のある項目は、比較的どの項目も回答数が多く、顕著な差はみられなかった。

④あなたは、血液型ステレオタイプに基づいて何か言われた経験はありますか。ある場合は誰に言われましたか。※複数回答可

【選択肢の説明】まず★のついている選択肢を見て、「言われた人」が★の選択肢に合わない場合のみ、☆の選択肢から選ぶ。言われたかどうかわからないという人は、言われたことはないを選択する。

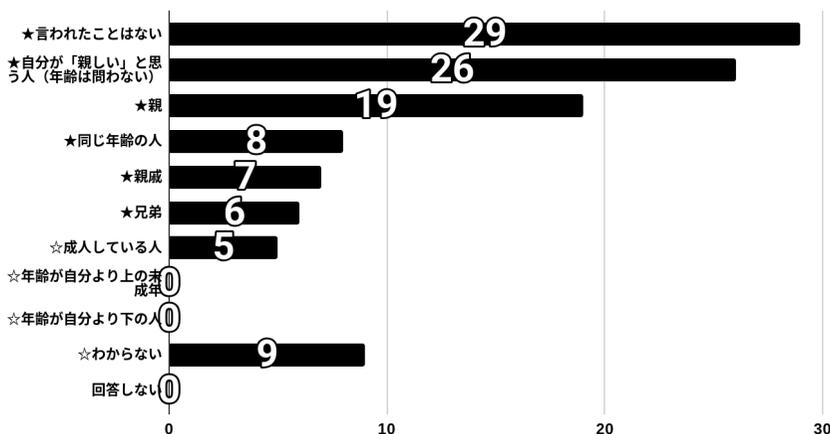


図5 血液型ステレオタイプに基づいてなにか言われた経験（人）

図5では、言われたことがない、と回答する人が最多であった。その次に自分が「親しい」と思う人、親、という選択肢が多くなっている。その他の選択肢は数が少ない上、その中での差はほとんど見受けられなかった。

4. 考察

①より、血液型ステレオタイプは正しい、どちらかといえば正しいと考える人が多く、肯定的な意見が多いと言える。しかし、そのほとんどは「どちらかという正しい」であり、意見の曖昧さが目立った。この理由について、アンケート調査の他の項目の結果から考察する。

②に関しては、見聞きしたり話したりした時期として小学校高学年や中学生と答える人が多く、この時期に血液型と性格の話題に触れる機会が増え、話題にされることがより多くなっているのではないだろうか。親しい人との会話で血液型と性格の話題を取り上げたり、血液型と性格を結びつける診断やゲームをしたりと、自発的に血液型ステレオタイプの考えを受け入れる人が多いともいえるだろう。また、今回のアンケートで中学生には「性格診断」といった診断コンテンツへの興味が高く、それが影響して血液型別性格診断への興味も高くなっていると考えられる。血液型と性格についての話題をどの手段によって見聞きしたかという質問では、SNSという回答が最も多く、手軽に行うことのできるSNS上の血液型と性格に関連した診断コンテンツは現代の中学生にとって身近な存在となっているといえる。このように、血液型ステレオタイプに対する是非とは裏腹に、中学生は様々な場面で様々なツールを通して血液型ステレオタイプの考え方に多く触れていると考えられる。完全に血液型と性格の関係性があると信じている訳ではないが、今までの経験を通して自然とその関係性が「身近な存在」となったのではないだろうか。以上のことから、中学生では血液型ステレオタイプに対しやや肯定的な思考になっており、「どちらかという正しい」と少し曖昧に考える人が多いのだと考察する。

5. 結論

中学生において、血液型ステレオタイプはSNS上で頻繁に見られる診断コンテンツや身近な人との会話によって、よく聞く「身近な存在」になっていると判明した。血液型ステレオタイプを否定する人もいる一方で、ただ見聞きするだけでなくこの話題についての会話をしたり、自分から興味をもって血液型性格診断などの血液型ステレオタイプに基づいた娯楽を体験したりと、自ら積極的に血液型と性格の話題に踏み込んでいる人も多いといえるだろう。血液型ステレオタイプは中学生に様々な場面やツールで多く接しており、正しい正しくないという枠組みを外してもなお、文化的に広く浸透していると結論づけた。

6. 今後の課題

今回の研究では、SNSのどのようなツール、投稿から血液型と性格について見聞きしたのか、行った診断やゲームはどのようなツール（SNSや書籍、雑誌の診断コンテンツ、口頭のゲームなど）で行われたものなのかがわからず、血液型ステレオタイプの詳細までは考察することができなかった。今後は文献調査を通して上記に挙げた事柄を調べ解明することが課題である。

参考文献

- 佐久間勲（2002）「血液型ステレオタイプによる選択的情報処理」東京成徳短期大学紀要
35, p87～p94
- 佐藤達哉・渡邊芳之（1992）「現代の血液型性格判断ブームとその心理学的研究」心理学
評論刊行会
- 吉田寿夫（2002）「人についての思い込みⅡ A型の人とは神経質？」北大路書房